

生態系等への影響について文献等で指摘があり、さらに知見及び情報の充実に努める必要のある外来生物のリスト (要注意外来生物リスト)(暫定版)

1. リスト作成の目的

生態系等への影響が文献等で指摘されている外来生物について、今回の特定外来生物の選定作業では、被害に係る科学的知見及び情報が不十分であるとの理由から、選定されなかった外来生物がある。

これらの外来生物について、生態系等に係る被害の予防に役立てることを目的にリスト化し、それらの生物の利用に関し留意すべき事項を掲げて公表することにより、関係者に影響の内容を周知し、管理されている施設や場所以外に逸出又は遺棄しないようにするなど注意を呼びかけるとともに、さらなる知見及び情報の集積を図ることとする。

(参考)「中央環境審議会外来生物対策小委員会岩槻委員長談話」抜粋

「外来生物問題に予防的に対処する観点から、特定外来生物には指定されていないものの生態系等に被害を及ぼす懸念があるものについて、要注意生物リストといったものを作成する必要がある。そうしたリストが公表されることにより、関係者が日頃より外来生物の使用に関心を持ち、さらなる知見が集積され、被害の予防に役立つようになることが期待」

2. リストの内容

生態系等に係る被害を予防するため、生態系等への影響が文献等で指摘があり、その取扱いに際して注意を呼びかけるとともにさらなる知見及び情報の集積を図る必要がある外来生物をリストに掲載する。

被害に係る知見や情報の蓄積がある程度見られる外来生物については、別途個票を整理し、リストに添付するものとする。

なお、各分類群グループ会合の意見を踏まえて、作成した案は別添のとおりであり、挙げられた種類数は、哺乳類 15 種、鳥類 2 種類、爬虫類 12 種類、両生類 9 種、魚類 27 種、昆虫類 3 種類、無脊椎動物 20 種類、植物 60 種類で計 148 種類であった(種類数としているのは、「外国産メジロ」「アメリカスッポン属全種」「タイワンシジミ群」「タンポポ种群」など、まとまりでの選定があるため)。

3. リストの公表

学識経験者の意見を踏まえて作成したリストについて、環境省において公表する。

公表に際しては、本リストの目的、取扱いを明記し、掲載種が外来生物法の規制の対象でないことも付記し、外来生物の利用者に混乱を与えないよう留意するものとする。

生態系等への影響について文献等で指摘があり、さらに知見及び情報の充実に努める必要のある外来生物のリスト(要注意外来生物リスト) 昆虫類(案)

和名	学名	導入経路 導入手段	文献等で指摘されている 影響の内容	主な 参考文献	備考
クワガタムシ科 (Lucanidae)			生態系(競合・駆逐、遺伝的攪乱)	資料9を参照	
ホソオチョウ	<i>Seriginus montela</i>	意図的 放蝶	生態系(競合)	1,2	ジャコウアゲハとの競合が懸念されている。放蝶に由来すると考えらる分布拡大が見られるため、これらの行為は防ぐ普及啓発が必要。
アカボシゴマダラ	在来 <i>Hestina assimilis shirakii</i> を除く全亜種	意図的 放蝶	生態系(競合)	3	ゴマダラチョウとの競合が懸念されている。 <i>Hestina assimilis shirakii</i> が奄美大島に在来で分布するが、神奈川県などで分布を拡大中の種は国外産の亜種である。放蝶行為を防ぐための普及啓発が重要。

主な参考文献

- 1 日本生態学会(編)(2002) 外来種ハンドブック. 地人書館, 390pp.
- 2 桜谷保之・菅野格朗(2003) 京都府木津川堤防におけるホソオアゲハの生態 - 特に在来種ジャコウアゲハとの比較 -, 「日本産蝶類の衰亡と保護 第5集」:181-184.
- 3 中村 進一・菅井 忠雄(2004) 神奈川県におけるアカボシゴマダラの続報. 月刊むし(投稿中).